

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 鉱工業生産指数(2016年6月)
 ~良好な内容だが、先行きは期待薄~

発表日: 2016年7月29日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL: 03-5221-4528

(単位: %)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
15	1月	2.9	▲2.6	3.5	▲2.6	▲0.1	5.6	▲1.0	9.3	8.5	3.2	3.8	▲8.1
	2月	▲2.2	▲2.4	▲3.2	▲3.0	0.9	7.0	1.7	8.6	▲9.7	▲3.1	▲2.0	▲5.2
	3月	▲0.5	▲2.0	▲0.6	▲3.0	0.1	6.1	0.4	8.2	▲0.3	▲2.0	▲0.6	▲6.8
	4月	0.7	▲0.2	0.9	0.0	0.0	6.4	▲0.3	6.9	2.2	3.1	0.0	▲3.7
	5月	▲2.2	▲4.5	▲1.4	▲3.5	▲0.3	3.9	1.0	6.5	▲0.8	▲0.5	▲1.9	▲6.9
	6月	1.7	2.1	0.6	1.7	0.8	3.9	▲1.7	1.2	1.2	5.0	1.7	0.2
	7月	▲0.9	▲0.6	▲0.6	▲1.0	▲0.6	2.7	▲0.1	1.9	▲0.5	▲0.1	0.1	▲0.9
	8月	▲0.7	▲0.9	0.2	0.7	0.2	1.9	3.2	1.2	▲2.3	0.3	0.9	0.7
	9月	0.3	▲1.2	▲0.3	▲2.0	▲0.1	2.0	▲1.0	3.7	▲0.7	▲3.5	▲1.1	▲1.0
	10月	1.2	▲1.6	2.6	▲0.8	▲1.2	0.2	▲1.8	▲0.4	0.5	▲4.6	4.5	1.8
	11月	▲1.1	1.4	▲2.4	0.7	0.4	▲0.4	2.2	▲0.4	▲0.4	▲1.5	▲3.9	2.9
	12月	▲1.2	▲2.1	▲1.4	▲2.5	0.4	0.0	0.7	3.1	▲2.4	▲6.0	0.1	0.8
16	1月	2.5	▲4.2	2.0	▲5.4	▲0.3	0.2	▲0.1	4.1	4.2	▲10.7	2.1	▲2.2
	2月	▲5.2	▲1.2	▲4.1	▲1.6	▲0.2	▲0.9	▲1.5	0.9	▲8.1	▲1.5	▲4.3	▲0.7
	3月	3.8	0.2	1.8	▲0.7	2.9	1.8	3.3	3.8	2.6	▲4.8	0.0	0.5
	4月	0.5	▲3.3	1.6	▲3.4	▲1.7	0.1	▲2.2	1.8	5.2	▲3.7	4.9	0.6
	5月	▲2.6	▲0.4	▲2.6	▲1.0	0.4	0.8	1.8	2.6	▲1.4	▲1.1	▲5.3	1.3
	6月	1.9	▲1.9	1.2	▲2.2	0.0	0.0	▲1.4	3.0	0.5	▲3.3	1.0	▲1.4
	7月	2.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8月	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)16年7月、8月は、製造工業生産予測調査の数値

○6月単月では大幅上昇も、4-6月期は前期比横ばいにとどまる

経済産業省より発表された2016年6月の鉱工業生産は前月比+1.9%と、事前の市場予想(+0.7%)を大幅に上回った。こうしたヘッドラインの強さに加え、7、8月の予測指数が2ヶ月連続の増産を見込んでいることや、6月の実現率のマイナス幅が小さいこと、7月の予測修正率が2014年2月以来のプラスになっていることなど、内容も全体的に強い印象だ。良好な結果といって良いだろう。前月の時点では、生産が先行き失速するリスクも意識されていたが、こうした下振れリスクは大分和らいだ格好だ。

とはいえ、今月の上昇は、5月の大幅低下の反動の面も大きく、4-6月期では前期比横ばいにとどまる。1-3月期に前期比▲1.0%と落ち込んだ後には物足りない。6月の結果自体は確かに想定対比強かったが、これをもって生産が上向きつつあると判断するのは早計だろう。

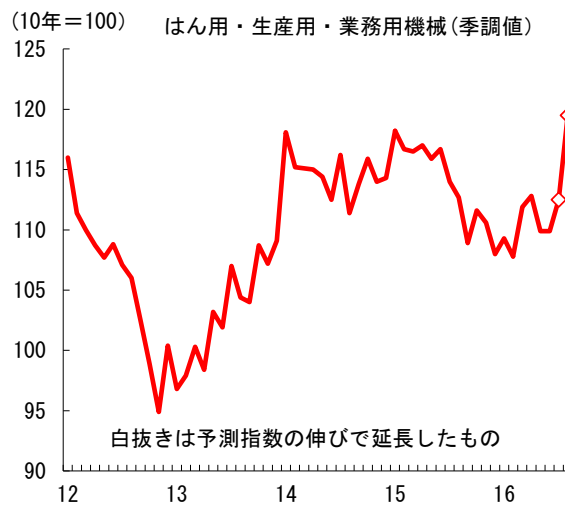
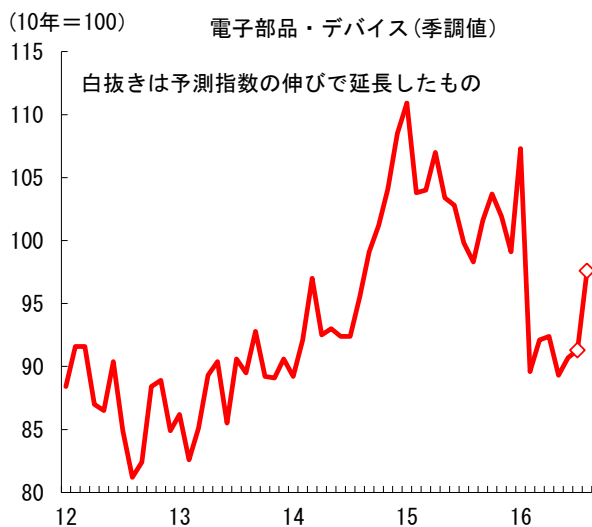
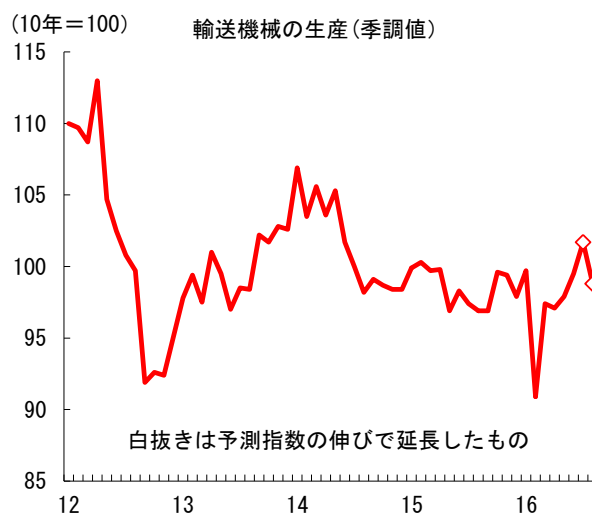
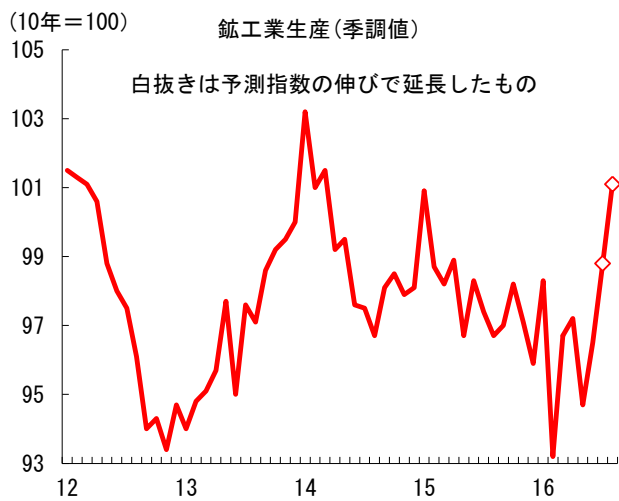
○先行きも停滞感払拭には至らず

同時に公表された製造工業予測指数は、7月が前月比+2.4%、8月が+2.3%だった。7、8月が予測指数通り、9月が横ばいで推移すると仮定すれば7-9月期は前期比+4.4%の大幅上昇となるが、実際の生産は予測指数から下振れる傾向があることに注意が必要だ。業種別に見ても、予測指数からの大幅下振れがよく見られる情報通信機械やはん用・生産用・業務用機械などが強い計画となっており、予測指数を真に受けるのは危険だろう。7-9月期の着地がどうなるかはまだなんともいえない。

実際、外部環境は芳しくなく、生産の先行きに強気にはなれない。まず、海外経済の回復力が鈍いことに加え、円高の重石もあり、先行きの輸出に期待をかけることは難しい。加えて、個人消費や設備投資といっ

た内需も依然として停滞が続くなど、内外需ともに回復感はない。先行き不透明感の強まりが消費の手控えや投資の先送りに繋がるリスクにも警戒が必要だ。特に設備投資については、企業収益の悪化が顕著になるなか状況は厳しいだろう。このように、需要面での牽引役不在の状況に変化はみられない。加えて、在庫の動向も重荷になる。在庫指数、在庫率指数とも高水準での推移が続いており、在庫調整圧力は依然として強い状態にある。このことが先行きの生産の頭を押さえるだろう。

このように、需要面からも在庫面からも、企業の生産活動が上向き環境は整っていない。生産が回復基調に戻るには時間がかかり、当面横ばい圏内の動きを続ける可能性が高いと予想している。



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」